

下町文化

第 196 号

平成10年7月15日

発行

江東区教育委員会

生涯学習部生涯学習課



支考像

芭蕉記念館 新展示

◎描かれた文人像
◎江戸の歳事、など

芭蕉記念館（常盤1-6-3）では、6月26日（金）から新展示になりました。今回は2階展示室の資料すべてを入れ替え、「芭蕉の書」「描かれた文人像」「江戸の歳事」を取り上げています。

*描かれた文人像

楽しみください。

*江戸の歳事

人麻呂像や芭蕉像は、文人画として古くから数多くの作品が描かれてきました。これは、和歌や俳諧が広く庶民に浸透していたことを示しています。このほか、さまざまな分野で活躍した人物や祖および祖先の偉業を顕彰する目的で描くなど、今も多くの文人像が残されています。

展示では、許六、破笠、石燕の描いた芭蕉像のほか、偃武が蝶夢を描いた肖像、川柳の祖として知られる柄井川柳像、渡辺華山が描いた嵐雪や支考などの肖像を取り上げています。遺墨とともに各文人の表情もお



柄井川柳像

「工匠館」第5回特別展 4面
たくみのやかた

て、江戸の発展とともに庶民の娯楽は、一層多様化するようになり、行楽地も江戸の外延部へと広がるようになります。

展示では、「隅田川堤の花見」「亀戸天満宮の藤見」「品川の潮干狩」「両国の川開き」「深川祭」「西の市」などを『江戸名所図会』『絵本江戸土産』『東都歳事記』などの和本で紹介しています。

現代にも通じる行楽地・祭・風物などにタイムスリップしてみてはいかがでしょうか。

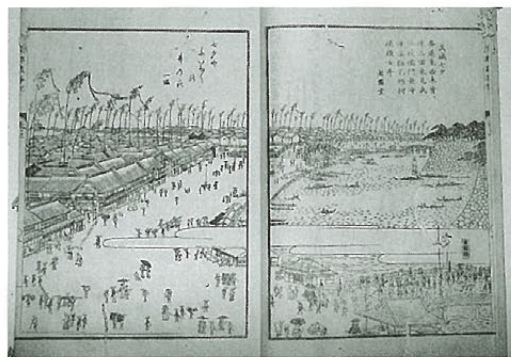
*芭蕉の書

芭蕉の流麗な書は、句のすばらしさとともに広く知られています。

今回の展示では、「ふる池や」発



深川八幡富士山開き



武城七夕

句短冊のほか、「古里や」発句懐紙、「蛤の」発句懐紙、「山吹や」発句自画賛、「はるもや、」画賛などの複製資料を中心にした内容です。

この機会に是非、新展示をご覧ください。

「芭蕉記念館」

開館：午前9時30分～午後5時

（芭蕉庵史跡展望庭園は、午前9時15分～午後4時30分）

休館日：月曜日

（芭蕉庵史跡展望庭園は第1と第3月曜日開園）

入場料：大人100円、小中学生50円

交通：都営新宿線森下駅下車

徒歩7分

江東外見発見伝―区外資料の紹介―

流山市諏訪神社の石造燈籠

3月号で紹介した富士吉田市浅間神社の奉納額をおぼえていますか。その記事を見た新大橋にお住まいの野口利絵子さんから、流山市の諏訪神社に深川の講社の燈籠があるというおハガキをいただきました。そこで今回は、諏訪神社の燈籠を紹介することになりました。

東武野田線の豊四季駅を降りて県道を左折し、しばらく歩いていくと鎮守の森が見えてきました。駅から200メートルほどの所に諏訪神社があります。

諏訪神社の創建は大同2年（807）と伝えられ、源義家（1039～1106）が奥州に向かう際、この地で馬と人を集め、社前に戦勝を祈って任地にむかったといわれています。

さて、燈籠は拝

殿前の門のそばに

一対が向かい合う

ようにしてあります。

高さは約2.7

メートル。竿石に

は「奉納 諏訪大



明神」、基礎部の正面には「深川深一 講中」と刻まれています。

また、基礎部背面には、世話人として村松町（現福住一・二丁目）

の大和屋喜平治ら11人の名前があり、さらに、大正3年（1914）5

月23日に米村定八が「再建」したとあります。この「再建」は、元々

あった燈籠を大正3年に造りなおしたという意味かもしれません。

燈籠を造ったのは、深川材木町の石工で権七という人でした。

この他にも「佐賀町 上州屋松五郎」などの町名・人名がみられ、

多くの人々が燈籠の奉納に関わっていたことがわかりました。

皆さんも、このコーナーへ情報

をお寄せください。地域の歴史を

探しに足を運びます。

芭蕉記念館から

芭蕉記念館俳句会

日時 7月28日(火) 午後1時30分

(集合1時15分)

会場 2階研修室

内容 兼題 夏季雑詠3句

席題なし

対象 区内在住・在勤の方50人

(先着順)

費用 無料。句報の送付をご希望の方は、80円切手貼付宛先明記の封筒をお持ち下さい

締切 7月26日(日)

申込 窓口または電話で

夏休み子ども芭蕉教室

夏休みの思い出に、江東区ゆかりの俳人、松尾芭蕉について学ぶ教室です。



日時 8月4日(火) 午前9時30分

11時30分(集合9時20分)

会場 芭蕉記念館1階会議室

内容 芭蕉ってどんな人、アニメ映画「松尾芭蕉」、俳句カルタなど

対象 区内在住の小学生

定員 30人(先着順)

費用 無料(筆記用具持参)

費用 無料(筆記用具持参)

締切 8月3日(月)

申込 窓口または電話で

夏休み子ども俳句教室

小学生のための、やさしくわかりやすい俳句教室です。

日時 8月7日(金) 午前9時30分

11時30分(集合9時20分)

会場 芭蕉記念館2階研修室

内容 俳句ってなんだろう、俳句を作ってみよう、俳句を選んでみよう、先生の評など

対象 区内在住の小学生

定員 30人(先着順)

費用 無料(筆記用具持参)

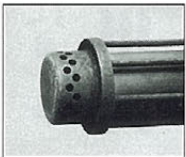
ここにも歴史があった

これは戦時中に使われた消防用の水鉄砲で、軽便防火ポンプともいわれました。

真鍮製で、伸び縮みができ、伸ばしたときには、159cmにもなります。

一番下に小さい穴があり、ここから水を吸い込ませ、勢いよく縮ませると、先端の口から水を噴射することができます。

水鉄砲は、江戸時代からあり、寛



政10年(1798)幕府の指示によって各町に設置されています。本格的な消防道具は、龍吐水と呼ばれる水揚げ用手押しポンプがあり、水鉄砲は補助的な器具ということになります。

戦時中では、防火水槽の脇に備えた町もあったそうです。水鉄砲は、飛び火から家を守るための、庶民の消防器具の一つでした。

この資料は東砂6の大石忠一さんから寄贈いただきました。

締切 8月6日(木)

申込 窓口または電話で

◇芭蕉記念館

江東区常盤1-6-3
(3631) 1448

伝統の技 実演公開

毎月第一・第三日曜日に工匠壺番館(森下文化センター内)で行っています職人さんの今後の実演日程は次のとおりです。

7月19日 漆工 前田 仁

上研 呂



*時間は午後1時~3時。8月の実演公開はお休みいたします。

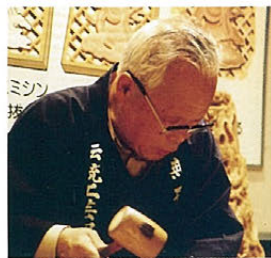
計報

江東区登録無形文化財(工芸技術・鳶装束製作)保持者野中健吉氏(74歳、三好3-11-8)は去る5月25日に逝去されました。

慎んで追悼の意を表します。

「工匠館」第5回特別展開催

岸本忠雄(号・後藤祐浩)作品に見る 培われた「木彫」の世界



岸本忠雄

さんは、大正14年(1925)に深川で生まれました。

祖父の庄吉氏は、「明治の名人」といわれ、明治12年(1879)発行の東京府勸業課編『東京名工鑑』にも記載された後藤派名工の後藤工祐氏に師事しました。

たといいます。このように、庄吉・太吉・忠雄と代々後藤派の技術を受け継いできたことから、「深川の後藤」とも呼ばれています。

忠雄氏は、彫刻を修業する一方、南画・書道なども習得しました。これらは、彫刻の下図の構想や描くために生かされています。作品は、区内では霊巖寺や冬木弁天などで見ることができ、洋物は国会議事堂や旧最高裁判所の調度品の彫刻などがあります。このような功績から、昭和60年には黄綬褒賞を受賞しました。

木彫刻の歴史は、もともと宮大工にはじまるといわれています。その技術の一部が分化し、発展したもので、主に寺社建築の壁面・柱・梁回りに見られる彫刻や住宅建築の欄間・置物などの彫刻のことを指します。

ただし、仏像彫刻(仏師)・寺社などで使う道具類(宮彫り)、神輿の小物の彫刻なども木彫刻の一分派です。

彫り方には、筋彫り(線のみで形

を表現)、透彫り(板をくり抜いて形を表現)、象嵌彫り(彫ったところへ別の木をはめ込む)、丸彫り(形全体を掘り出す)などがあり、このうち丸彫り以外はすべて板材に彫刻します。

後藤派の技術的特徴は、流れるような線による軽快な彫刻にあるといわれます。深川では数奇屋風建築の欄間などに、江戸趣味の軽快で薄肉の象嵌彫りがよく行われました。そんな後藤派の技術を受け継ぐ岸本さん。その培われた「木彫」の世界をじっくりとご覧ください。

【会期】

8月29日(土)～9月6日(日)

午前10時～午後6時(入場無料)

【会場】

工匠式番館(森下3-12-17)

森下文化センター内

*会期中、岸本さんの実演公開があります。



江東ゆかりの人物(9)

福士幸次郎



口語自由詩の先駆者といわれるこの人、三好2丁目済生院にぬむる。明治22年、青森県弘前市に生れる。同郷の先輩佐藤紅緑(詩人サトウハチローの父)の門下生たるべく上京。当時、深川福住町に住む兄民蔵宅に身を寄せたのは明治41年、彼19才の時だった。

現実派の詩作を多く発表し、青年詩人に影響を与え、最も早い時期の口語の自由詩人として活躍。20才にしてすでに詩壇の鬼才とたたわれた。

また、日本詩歌の音数律の研究、考古学、民俗学の研究にも功績を残した。

著書に、詩集「鍛冶屋のボカンさん」「太陽の子」「恵れない善」「この残酷はどこからくる」などがある。

同門に、千家元磨、佐藤惣之助、榊本清などがある。また、サトウハチローなど若い詩人を指導した。昭和21年10月11日逝。

(辻 康信)